

緑丘を訪れる 高校生たち

高大連携活動により、大学教員がキャンパスを離れ高校に出向く機会が増える一方、近年は高校生も商大キャンパスに足を踏み入れるようになってきています。そのもっとも大きな催しが、毎年8月上旬に行われる「オープンキャンパス」です。この行事は、事前に札幌と旭川で行われる「オープンユニバーシティ」の総決算として催されるもので、従来からの大学説明会に加え、多彩な模擬授業や科目紹介パネル展示、あるいは付属施設案内も行い、総合的な商大像を理解してもらおうとするものです。この「オープンキャンパス」には、生徒・保護者・高校関係者を合わせて800名以上が例年集まります。これらのイベントで使用された科目紹介パネルは、本学講義棟関連ゼミ室前に常時掲示してあります。

また、近頃は個別に商大を訪れる高校も増えています。これらの高校は、引率の先生に率いられたクラスや学年単位でキャンパスを訪れ、本学の担当者の案内のもとに、学内を見学していきます。中には、9月に来学した滋賀県立水口東高校のように、修学旅行のスケジュールに本学訪問を組み入れた学校もありました。以前より、伝統を誇る本学では、懐かしい母校を再訪するOB・OGの姿が絶えることはありませんでしたが、今では制服姿の若者たちもキャンパスに彩りを添えるようになりました。



オープンキャンパス



修学旅行で商大を訪れた滋賀県立水口東高校



そして、実際に商大キャンパスで定期的に学ぶ高校生たちも現れてきています。本学では、4年前から地域貢献の一環として、夜間主コースにおいて「公開授業」を開始いたしました。この授業は、商大生が履修する通常の授業の大半を学外にも開放し、一般の方々の向学心にも応えようとする制度です。この制度を利用し、一般市民の方々に混じって札幌や小樽の高校生の皆さんも、文学や法学や心理学などを熱心に学んでいます。

更に最近では、中学生も本学を訪れるようになってきています。これは近年中学校カリキュラムに導入された「総合学習」の一環として大学を見学する生徒たちですが、夏休みに開かれた小学生対象の「インターネット子供教室」も含めて、現在の商大は、小中高の生徒や一般市民に広く開放された学府になろうと努めているのです。

中大連携? 授業(ドイツ語)を参観する余市西中学校